



様式第12号(第14条関係)

令和6年 6月 24日

令和5年度持続可能な地域づくり団体支援寄附金実績報告書

鳥取県知事 平井 伸治 様

住 所 鳥取県八頭郡八頭町安井宿 1154 番地

団体名 Frontier School

代表者職・氏名 代表・内田 奏 杜

令和5年度中に交付を受けた寄附金について、下記のとおり活用して事業を実施しましたので、持続可能な地域づくり団体支援寄附金交付要綱第14条第1項の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

1. 寄附金受入額 令和5年度合計 12,000円

2 添付書類

- (1) 寄附金活用実績報告書<様式第12号の2>
- (2) 寄附金活用収支決算書<様式第12号の3>

令和5年度寄附金活用実績報告書

事業名	とっとり未来 Lab.
実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
	<p>(1) 当初予定だった4日程の探究プログラムの成果 日程：2023年7月23日,8月11日,8月26日 *初日の7月9日は悪天候により開催中止とした 場所:八頭町芸術文化交流プラザ『あーとふる八頭』 参加:八頭中学校シジュニアリーダー *当初は県内の中高生を参加対象としていたが、八頭中学生を主対象として計画を見直した 目標:あーとふる1周年イベントで中学生が挑戦したいことを主体的に決めて行動に移すことができるようになる。 内容:ジュニアリーダーの活動拠点の整備(閉校舎DIY) 拠点を活用して挑戦したいことを検討しまとめる</p>
<p>事業内容</p> <p>※対象者の範囲や人数、実施方法等を具体的に記入。</p>	<p>【1日目(7月23日)】 概要：閉校舎DIY(中学生の活動拠点の整備) 目標:今よりワクワクする活動拠点を協力して造ることができる 中学生の発案により未完成だった個室をDIYした。本棚、個室床、個室ライトの3点を整備した。中学生からは「自分たちが作った拠点で何かしていきたい」というような声も聞かれ、次の活動への動機付けに上手く結びつけることができたと考察する。</p> <p>【2日目(8月11日)】 概要：自分探しワーク(自分がワクワクすることを探す) 目標：各々の「好き・得意・興味」を整理することができる 鳥取県で実際に活動しているCOCONさんと7-Rさんからお話を聞き、活動の原点は自分の好き・興味であることを知った中学生は自己紹介マインドマップを活用して、自分の「好き・得意・興味」を整理。これにより、挑戦したいことを自分たちのワクワクという遊び心から考えることができたと考察する。</p>

	<p>【3日目(8月26日)】</p> <p>概要：挑戦したいことリストの作成</p>
	<p>目標：1周年イベントで挑戦したいことをまとめることができる</p> <p>前回の自己紹介マインドマップそれぞれの「好き・得意・興味」を整理できたため、マトリックスを用いて全員のを掛け合わせて挑戦したいことリストを作成し、あーとふる八頭1周年イベントでお化け屋敷を開催することが決定した。上記を踏まえて、お化け屋敷を開催したので、その成果や中学生の変化などについて記述する。</p> <p>(2) お化け屋敷の開催と中学生の変化</p> <p>日程：2023年11月3日(金・祝)</p> <p>場所：八頭町芸術文化交流プラザ『あーとふる八頭』</p> <p>運営：八頭中学校ジュニアリーダー0</p> <p>来場：延べ202名</p> <p>お化け屋敷開催に向けて、どのように驚かすかや部屋を暗くする工夫など中学生で考えた。当日は当番を決め、それぞれが持ち場の仕事を一生懸命こなす姿が見られた。来場者からは「とても楽しかった」「怖かったけど、お化けが優しく案内してくれた」など良い評価が多く集まった。また、中学生はここで留まらず来年に向けての話し合いを自主的に実施し、良い雰囲気が見られる。</p> <p>上記を踏まえて、小中学生を対象に交流会イベントを実施した。</p>
	<p>(3) ブルーバード交流会</p> <p>日程：2024年3月17日(日)</p> <p>場所：八頭町芸術文化交流プラザ『あーとふる八頭』</p> <p>運営：八頭中学校ジュニアリーダー</p> <p>参加：29名(小学生27名+中学生2名)</p>

	<p>(1) 生涯学習社会の拡充により質の高い教育の提供 →学校で学ぶことのできないスキルを身につける機会や異学年との交流をすることができる機会を設けることができた。</p>
<p>事業実施の 成果・効果 (見込み)</p>	<p>(2) 今後の社会の担い手としての中学生の資質向上 →今回のとっとり未来 Lab. の活動を経て、中学生が自主的に来年に向けて話し合いをする姿が見られた。</p> <p>(3) 社会教育の先行事例となるような探究的学習活動のモデル確立 →中学生が自分のやりたいことを思考・実践する機会や場所の提供や中学生と大学生の交流などをしたことで今後の探究的活動に繋がると考える。「とっとり SDGs アワード」のファーストステップ部門において【入賞】を受賞し先行事例としても評価された。</p> <p>(4) 県外の大学生も関わり関係人口の創出・拡大 →岡山県から大学生が集まり中学生と多くの対話をしながら親睦を深め、やりたいことを発見する活動を行った。中学生がやりたいことを形にすることへのハードルを下げたため、COCONさんと7-Rさんと呼ぶことで関係人口の拡大に繋がった。</p> <p>(6) 八頭中学校ジュニアリーダーの育成及びメンバー増加 →当初 8 人だったメンバー数が現在は 21 人と倍以上のメンバー増が見られた。また、上記に記した通り、自主的に活動に取り組む姿も見られている。</p>

※活用事業が複数ある場合には、事業ごとに作成、又は事業の内訳がわかるように記入すること。

※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、その見込みを記載すること。

令和5年度寄附金活用収支決算書

【収入】

区分	金額(円)	内訳
支援寄附金	12,000円	令和5年度交付分
支援寄附金	32,000円	昨年度繰越金
収入計	44,000円	

【支出】

区分	金額(円)	内訳
繰越金	44,000円	次年度繰越金
支出計	44,000円	

※支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費など、経理上の区分名で記載すること。